

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471000487	事業の開始年月日	平成13年8月1日
		指定年月日	令和
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所		
事業所名	スカイホーム湘南		
所在地	(245-0051) 横浜市戸塚区名瀬町36-4 KMプラザ4・5階		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月16	評価結果 市町村受理日	令和5年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念に基づきご入居者一人ひとりの人格を尊重する介護を心がけ、朝礼等で職員全員に細かく伝えている。参加していない職員には、申し送りノートを読みサインをするように徹底している。ビルの4・5階部分に位置している為、交流が難しい場面もあるが、散歩の時、近隣の方々との触れ合い、また、運営推進会議を通して地域の理解を得るように努めている。家庭に近い生活を支援し、食事は手づくり、旬の食材を取り入れ工夫している。誕生日会・地域のイベント・外食会・季節に応じた行事に力を入れている。しかしコロナウイルス感染症の関係で自粛がある為、外食・家族・地域を含めた行事は出来なく、宅配での昼食会・お誕生日会等その他ホームで行っている。面会に関しては予約を取って頂き、玄関での仕切り版越しに20分程度会っていただいている。お看取りのご入居者家族には感染予防をしっかりして頂きながら居室での対応も行っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年10月21日	評価機関 評価決定日	令和5年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「戸塚」駅東口バス乗り場6番から「弥生台」行きバスに乗り、バス停の「富士橋」で下車します。事業所はバス路線が走る通りに面しており、バス停を降りてすぐ横の5階建てビルの4,5階にあります。コロナ禍も3年目に入りすべてに行動規制がある現在ですが、目の前の商業ビルに中華レストランやコンビニエンスストアがあり、活動に便利な利用者には良い刺激を与えられる環境です。また、安全でゆっくりと散歩ができる川沿いのコースが至近距離にあり、コロナ終息後は以前のように活発な活動が期待できます。

<優れている点>

居室は車いすの動線を考慮した家具の配置があり、プライバシーの確保にも配慮した安心の空間となっています。建物の立地が良く、外食、買い物が行きやすい環境となっています。ホーム長の積極的で明るい現場での対応と経験豊かな職員の細かな接遇配慮が活きて、無理と無駄がない支援の空間です。

<工夫点>

入浴の時間は午前中ですが、利用者の体調や気分を考慮して午後の時間帯へも変更します。好きなもの、旬なものを適宜に手作りで提供できるように、食材提供を外部業者から、法人内の部署に変更し、ニンジン1本からなど自由に選んで注文ができる体制に変えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スカイホーム湘南
ユニット名	はづき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関やリビングに理念を掲示し、日々職員同士で意識するようになっている。毎日の朝礼でも、気にかけて対応するよう声かけをしている。	基本理念を事務所や施設の壁に掲示し周知徹底を図っています。理念の実践に向けてホーム長は朝夕のシフト交代時に気がついた事を伝達しています。ベテラン職員が接遇の基本を丁寧な言葉で教えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し通常は地域の行事に参加させていただいているが、コロナウイルス感染症が発生し色々な行事が出来ていなし。ホームで実施する防災・避難訓練をするのみ、他は避けている。今後少しずつでも出来るようになると思う。	町内会に加入しています。コロナ禍の今は自治会自体の活動も制限しています。ボランティアの訪問や自治会イベントに参加などコロナ後を見据えて計画を練っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の交流・中学生の職業体験もできなく認知症の理解が妨げられている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に一回、年6回開催しなければならないが、去年は6回の内1回しかできなかったため、資料送っていたが、今年度は少しずつ会議をし始めている。	コロナ感染拡大時期はテーマを事前に決めて書面による運営推進会議を行っています。感染の様子をみながら対面による会議も開催しています。対面会議の際はヒヤリハット事例などを説明し、質疑応答なども出ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活支援課・高齢障害支援支援課に出向く事は減ったが、認定調査・支援課の担当者が生活保護の方の面談を受け入れている。居室の空きが出ると、連絡を仕合いご入居に協力していただいている。	戸塚区の高齢・障害支援課からは都度の情報提供や、相談事にも素早い対応を受け、安心した協力関係を構築しています。事業所は運営推進会議での内容を報告し、日頃から相互に積極的な問題共有を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束について3か月に1回は全体研修を行っている。身体拘束委員会を発足している為、毎月のカンファレンスで話し合い啓発に努めている。また、職員一人一人も理解をしている。玄関の施錠はご入居者が急に外へ飛び出しそうとき、一時的に施錠する時もある。	ビル内の各階の玄関ドアの施錠はしていません。あらゆる機会を捉えて職員間で身体拘束の事例と「事の是非」の話し合いをしています。3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し、意識のレベルを高める目的の事例検証やスピーチロックなど具体的な内容を合議しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホームで虐待防止について研修を行い理解を深めている。職員間で虐待と気づいた時は、その都度注意し解決に向けて話し合いを持ち、管理者に報告し解決している。また、虐待の事例も学ぶ機会をとり、気付くことが多くなっている。	毎月のカンファレンスでは重要討議テーマとして取り上げています。また、ホーム長とベテラン職員が接遇方法、特に言葉の使い方や支援の仕方に強制がないかという点に留意した「意識付け」を徹底して指導しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は、後見人・保佐人と接して都度、どのような役割をして頂いているのか管理者より話を聞き取り、身近な存在であることの理解を深めている。介護福祉士が増えたことにより一層理解が深まってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する締結は、ご家族ご入居者に運営規定の概要・重要事項説明書を交付し一緒に読み合わせをし、同意を得るようにしている。現在は長い時間の読み合わせが出来ない為、前もって書類をお送りし、契約の日には短時間で契約が出来るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問時、電話連絡をしてきた時に話の中で色々な事を聞き問題点について話、相互理解に努めている。ミーティングを通して職員に伝え理解してもらっている。事業所以外でも役所や地域包括センター等苦情意見を伝える所がある事を説明している	家族からの相談には即対応するように心がけ、途中または結果報告を励行しています。重要事項説明書にホーム長が相談窓口担当者であることも記載しています。外部行政担当窓口などの案内もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は朝礼・スタッフ会議や日頃の業務中に職員の意見や提案を聞き、運営の向上に反映させている。個人面談を行い職員の思いや要望を聴く事で相互の共通理解につとめている。そして意見や提案が出やすい環境に繋げている。	日々の出来事での問題点の把握や、支援の用に供する備品の準備、取り換えなどの相談を対面で行います。ベテラン職員の意見を尊重し、法人への報告時に具体的な相談が可能となります。	職員との個人面談を人事考課制度の一環だけにせず、都度実施をしながら意見、希望の吸い上げも行っていますが、更なる運用の充実を本部と構築する事が期待されます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の環境の整備に努め、最低賃金が上がるたびに直直しをし、管理者は職場の1人1人の家庭の状況を汲み取り、その人に合わせた負担のない最も良い労働時間や環境などを提案している。また、就業規則はいつでも閲覧できるような場所に置いてある。	職員それぞれが職場との関わり方は異なりますが、法人の人事部では職員の職場への意見、公私にわたる希望、個人事情などを傾聴し、快適な職場環境を整える事に注力しています。資格試験の費用の一部負担などの支援から始めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修のお知らせを閲覧できるよう回覧していた。希望すれば参加をして頂いていた。しかし、最近ではズームでの研修であったりして、パソコンを使用できない為参加できず、また、感染拡大を避けるために外部への研修も出来ていない。	法人はキャリアアップの支援策は講じています。内部研修の充実、資格試験費用の一部補助などを整備しています。年2回、人事考課を行っています。個人面談とは別に資格取得のメリット及び取得の仕方などの的確なアドバイスもしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会には人員不足の為参加していない。資料は送付されてくるので、確認を必ずしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所される方へ出向き、生活の様子や心情を汲み取り、言葉にならない気持ちを受け止め安心していただけるようアセスメントをしっかり行っている。また、気付きがあった場合すぐに職員間で情報共有し記録に残し安心して暮らせるように良い環境をさぐる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が求めている事を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、なぜこのホームを望んだのかを把握する為にご家族の気持ちに寄り添えるよう努力する。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時ご本人ご家族それぞれの要望を把握し、一定期間細かく個人記録に落とす。そして職員の多角的視点で観察していく。継続できそうか他の良い方法があるか等職員間で話し合いをしている。その結果何が必要か判断をし、ケアに結び付けている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する者、される者に分けず、双方向の関係が保てるように心がけている料理・洗濯・手作業の技術や作法・所作・考え方・経験等職員はご入居者から学び、共に活動し日常生活を過ごしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームだより・行事・日常の楽しそうな場面を撮影しご家族にお送りし様子を報告している。生活する上で必要な品があれば購入して頂けるように対応している。ご本人の様子を伝えることにより、支えていくための協力関係が築けることが多い			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人や知り合いがいる方は少なくなっている。散歩に出ると声をかけてくれることもあり、支援出来、交流も深まってきていたが、新型コロナウイルス感染症の関係で外出が出来ていない。	コロナ禍の現在は、玄関先でシート越しの家族の訪問とし、短時間ですが面談も実施しています。敷地内で日光浴や花見をし、気分転換を図っていますが、外出制限による利用者のストレス緩和のために、誕生日の食事会、全員参加の室内運動会、趣味の塗り絵などを室内で行える支援を工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がご入居者の様子をみてその都度対応し、良好な関係が保てるように心がけているが、認知症・精神疾患の方が多く、職員が困っている状態が続いている。主治医・看護師・家族と相談しながら対応を進めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後、他の施設へ電話を様子を伺っている。ご家族には電話で連絡し、現在の状態等をお聞きして、いつでもホームに出向いて頂き相談を受ける体制はあることを伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。把握困難な場合もご本人はどうしたいのかを望んでいるのかを考え、ご本人より発した言葉だけで判断せず、職員間でカンファレンスし希望に添えるように努める。	関わりの中で食べたい物を聞き取り叶えられるよう配慮しています。入居者の処理できない思いから来る行動を朝礼、フロア会議で話題として会議録に記録して目配りしています。入浴拒否には成功例を申し送り、ノートで共有し気持ちに寄り添った支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の情報・生活歴などを管理者・ケアマネジャーと連携し支援している。ご本人のためにケアが活かせるように努め、プライバシー保護への配慮を忘れないようにしている。ご本人との会話の中から聞き取り、知り得た情報も多くある為役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人1人の暮らし方や生活リズムを把握していき、職員と一緒に生活する中で心理面に視点を置き、出来ることを見つけその方の全体像の把握に努めている。特に疲れた時はすぐに休めるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	その都度ご本人やご家族に意見や要望をお聞きし、ケアプランに反映できるようにしている。又、医師・看護師・薬剤師のアドバイスを得て、月1度のカンファレンスを職員で行い、変化があった場合すぐに話し合いをし、介護計画に役立てている。	医師、看護師、ケアマネージャーの情報を各月のカンファレンスで共有して、ケアプラン作成に加え、家族の意見や要望を取り入れています。3ヶ月毎に見直し、変化があれば、都度変更しています。日々状況を個人記録とし計画に取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に1日の生活状況や発言、職員の対応等細かく記録している。いつもと違うことがあればすぐに職員間で共有し、その方のニーズを理解して介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人ご家族の要望に添えるようにしている。通院や送迎等基本的にご家族対応、日中夜間救急対応の場合、家族が間に合わない時、管理者または職員が同行するときもまれにある。又、望む方には医師の判断のもと、リハビリマッサージを受ける事もできる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭り・いきいきサロン参加・地域ケアプラザイベント参加・近隣中学校職業体験の受け入れ・2か月に1回の理美容も行っているが、コロナウイルス感染症で理美容以外出来ない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の同意を得て24時間居宅療養診療医に委託している。家族が医療に心配があれば、訪問医に尋ねられるような態勢を取っている。訪問医を中心に複数の医療機関と関係を密に結んでいる。毎週往診はある。急変時にはすぐに往診医が出向いてくださる。	入居時に医療について説明し同意を得て事業所協力医に変更しています。精神科兼務の内科医がほぼ毎週往診して、看護師や薬剤師、歯科医との連携を密にし、日頃の相談や急変時の対応をしています。他科受診は家族対応の上、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の医療連携で、月2回の勤務で日頃の健康管理や医療面での相談助言対応をしている。職員は些細な変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。気付いたことがあれば適切に医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時主治医から情報提供書・看護師から介護サマリーを送り、適切な治療が出来るように連携をしている。入院途中には家族と連絡し合い、病院のソーシャルワーカーと連絡を取り、退院時にはホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化に伴う意思確認書の指針の説明同意を得ている。必要が生じた場合ご家族・主治医・看護師・薬剤師・管理者で話し合い、終末期であるお看取りの話をし同意を頂く。その後署名捺印を頂いている。また、記録にも残しチームで取り組んでいる。	重度化の方針を入居時に説明しています。看取りについてはマニュアルに沿った医師立ち合いの上同意書を交わし、看護師を中心に支援しています。家族には納得が得られるよう説明をし経過を記録に残しています。振り返りでは職員の心のケアにも努めています。	研修では、経験豊富なホーム長やベテラン職員の具体的な対応事例などが教えられていますが、今後に向けて研修後の職員間だけの頻繁な考察と意見交換の実施が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全ての職員が定期的に、AEDや心配蘇生法の訓練を受けている。また、夜間帯の緊急マニュアルを整備し職員に話している。しかし、コロナウイルス感染症のために、心配蘇生法は出来ていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力で防災避難訓練をしている。現在はコロナウイルス感染症のためにホームだけの訓練をし、消防署には連絡している。運営推進委員会では地域の方と協力体制を築き避難場所・備蓄・照明等の確認を定期的に行っている。水害時ホームで待機になる。	災害用備蓄品リストを作成し、水を居室に、食料を消費期限を確認しながら備蓄しています。マニュアルに基づく訓練計画を作成し消防署と連絡を取りながら火災、地震に対応した訓練を実施しています。停電に備え足元の非常灯を設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者1人1人の人格を尊重した支援に努め、声かけや誘導する時は周りの状況に配慮し無理強いをしないよう支援を行っている。排泄や入浴等にはプライバシーが守れるよう職員全員が注意して対応にあたりご入居者の尊厳を保てるように努力している。	入居者のプライバシーと尊厳を重視しています。思いを受け止め、言葉遣いに配慮し気持ちを否定しないように心掛けています。個々の動作や状況に応じ、入浴や排泄支援にはカーテンで仕切り、ドアの小窓には飾りで見えにくくする配慮もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護者は意思表示が困難な表情を読み取り些細な事でも本人が決定出来る様な場面をつくっている。又、要望や不満を話しやすいように常にご入居者とコミュニケーションを摂れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、1人1人の体調に配慮し、本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごして頂いている。入浴拒否がある方に対しては入浴を無理やり誘導するのではなく、違う話をしながらお風呂場までお連れし入って頂く。時には違う日を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の生活習慣に合わせ、行事の時はお化粧やおしゃれな洋服を着て楽しんで頂けるように支援を心がけている。ご本人のこだわりや、身だしなみも把握しその人らしさが保てるようなお手伝いをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れた食事をご入居者と一緒に盛り付け、片付け等をして頂き、職員はご入居者がきちんと食べているかの把握をしている。又、食事が楽しく出来るようにCD・テレビをかえゆったりした気持ちで良い雰囲気づくりも気を付け大切にしている。	法人の献立提供で職員が食材計画を立て、冷凍食品活用の手作り調理を行っています。色合い、摂取状況を確認し、おかずを毎食3品提供しています。下膳やテーブル拭きで入居者も参加しています。月1回の誕生会では希望するメニューをレストランの宅配で楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し1人1人の摂取量の残量を確認し、口から摂取できない方には栄養面を補う為に、高カロリー食品も取り入れている。食事量・水分量は毎回摂取時に記録に残している。摂取量が少ない方は、色々な品を変えて対応し、食べる様声かけもしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、一人では出来ない方はスポンジ等を使用して介助し、夜には義歯を預かり消毒している 歯科医と連携している為、定期健診・口腔内の清潔保持・口臭・口腔内義歯の不具合があれば、すぐに治療に関して相談もできる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンを把握し声かけ誘導している。自尊心も尊重しトイレでの排泄も大切にしている。落ち着かずにトイレの往復が頻回な方や転倒リスクが高い方は、居室にPトイレを置き小まめに掃除をして清潔にしている。排泄表に記録も残している。	排泄チェック表でタイミングを見ての声掛け、誘導することで自立を支援しています。睡眠重視でトイレの頻回や転倒の危険の入居者は適切なオムツやパッドを使用する配慮をしています。ポータブルトイレ使用の際には除菌をして清潔を保つようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認を行い申し送りをしている。自然排便がで出来る様、水分摂取・体操・腹部マッサージ・散歩をし予防している。主治医・ナースと常に相談しながらコントロールもしている。その他、乳製品・食物繊維の多い食品も摂取しできる様に心がけている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調に合わせて入浴の管理をしている清潔保持の為、状態に合わせて随時方法を選択し、入浴拒否が多い方は声かけ等の工夫をしている。午前午後といつでも入浴できる様に対応。週2回必ず入って頂くようにしているが都度、汚れてしまった時は随時対応している	入浴は体調に合わせて、清潔保持のため時間を限定せず、午前、午後とも対応しています。原則週2回で、汚れた場合や入浴拒否のある方は足浴するなど対応しています。一対一対応で不満が言えたり、癒される時間となるよう会話が努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。個人の状態を把握し、必要な休息や睡眠が取れるように支援している。天気の良い日は布団を干し、リネン交換し夕方から安心した時間の過ごし方を取り組み、就寝に向けて安定するように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師・看護師・薬剤師の協力を得て適切な服薬援助ができるように情報共有を行っている。薬の目的や使用方法を把握できるよう、薬の説明書をファイリングしている。服薬時には誤薬防止の為、3名の職員で確認をしてから服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で発揮出来るようケアプラン内に織り込んでいる。お願い出来るような仕事を頼む。例えば、清掃・食事の後型片付け・洗い物・洗濯干したたみ・新聞たたみ等をして頂いた時に感謝の言葉を伝え、塗り絵・パズル・折り紙・漢字等楽しみながらして頂く。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	1人1人の要望に沿って散歩・買い物にお連れし、ご家族にも協力して頂き、戸外に連れて行ってもらったり、家族の自宅に泊まりに行ったり出来る事をして頂いている。ホームではご入居者と一緒に車を使用してドライブ等していたが、現在出来ていない。	一人ひとりの外出の機会を大切にしています。コロナ前は車いすを使用する人も建物裏の手川沿いの散歩コースや向かいのコンビニエンスストアでの買い物を楽しんでいます。ドライブを兼ね商業施設に気分転換に行くこともあります。今春は桜の花見を楽しみました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事業所で保管管理しているご入居者が使用したいと要望があればいつでも使用できるようになっている。また、ご家族の了解のもとご本人が所持したいと望むときは後本人に管理して頂く事も稀にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来る様にしている。話を理解出来ない時や伝わらない時は職員がその時の気持ちをお伝えして、ご家族とご本人との懸け橋をしている。字が書けない方は、職員が代筆をすることもある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに共有スペースの装飾を変え季節間を取り入れている。又、外出時や行事の写真を貼り楽しい雰囲気づくりをしている。TPOに合わせて、好きな音楽をかけてくつろいで頂いたり、テーブル配置・席替えも取り入れ気分転換を図っている。	居間にソファ、カラオケセット、テレビを置き、調理設備近くのダイニングテーブルに感染防止の透明プレートを立てて、家庭的雰囲気になるように工夫しています。調理の職員が見守る中、塗り絵やパズルをして過ごしています。音楽を流し、壁は入居者の写真や季節の折り紙制作で活気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関には椅子を置き、居間にはファーマ壁には写真や季節の花・動物の写真等で装飾している。机には仕切りスペースをし、その中に動物・花の写真等挟んで楽しんで頂いている。又1人で居室で過ごす時間や仲の良いご入居者同士がくつろげるスペースもある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者に馴染みのある家具や生活用品を持参して頂き、落ち着いた好みの空間をつくる事をご家族と一緒にして頂いている。写真や絵を飾り趣味に合わせた部屋づくりを工夫している。	エアコンと作り付けクローゼットにベッドを置いたフローリングの居室です。窓障子があり、眺望が良い環境となっています。壁に写真や絵を貼り、趣味の物や家具を持ち込み落ち着く空間です。毎日消毒をして清潔を保持しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやって頂けるのかを追求し、状況に合わせた環境整備に努めている。トイレへの空間表示を床に矢印を貼り自立した生活が送れるように工夫している。居室のドアには名前を解りやすく表札を付けている。		

事業所名	スカイホーム湘南
ユニット名	あおい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関やリビングに理念を掲示し、日々職員同士で意識するようにしている。毎日の朝礼でも、気にかけて対応するよう声かけをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し通常は地域の行事に参加させていただいているが、コロナウイルス感染症が発生し色々な行事が出来ていなし。ホームで実施する防災・避難訓練をするのみ、他は避けている。今後少しずつでも出来るようになると思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の交流・中学生の職業体験もできなく認知症の理解が妨げられている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に一回、年6回開催しなければならないが、去年は6回の内1回しかできなかったため、資料送っていたが、今年度は少しずつ会議を始めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活支援課・高齢障害支援支援課に出向く事は減ったが、認定調査・支援課の担当者が生活保護の方の面談を受け入れている。居室の空きが出ると、連絡を仕合いご入居に協力していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束について3か月に1回は全体研修を行っている。身体拘束委員会を発足している為、毎月のカンファレンスで話し合い啓発に努めている。また、職員一人一人も理解をしている。玄関の施錠はご入居者が急に外へ飛び出しそうなどとき、一時的に施錠する時もある。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホームで虐待防止について研修を行い理解を深めている。職員間で虐待と気づいた時は、その都度注意し解決に向けて話し合いを持ち、管理者に報告し解決している。また、虐待の事例も学ぶ機会をとり、気付くことが多くなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は、後見人・保佐人と接して都度、どのような役割をして頂いているのか管理者より話を聞き取り、身近な存在であることの理解を深めている。介護福祉士が増えたことにより一層理解が深まってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しての締結は、ご家族ご入居者に運営規定の概要・重要事項説明書を交付し一緒に読み合わせをし、同意を得るようにしている。現在は長い時間の読み合わせが出来ない為、前もって書類をお送りし、契約の日には短時間で契約が出来るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問時、電話連絡をしてきた時に話の中で色々な事を聞き問題点について話、相互理解に努めている。ミーティングを通して職員に伝え理解してもらっている。事業所以外でも役所や地域包括センター等苦情意見を伝える所がある事を説明している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は朝礼・スタッフ会議や日頃の業務中に職員の意見や提案を聞き、運営の向上に反映させている。個人面談を行い職員の思いや要望を聴く事で相互の共通理解につとめている。そして意見や提案が出やすい環境に繋げている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の環境の整備に努め、最低賃金が上がるたびに見直しをし、管理者は職場の1人1人の家庭の状況を汲み取り、その人に合わせた負担のない最も良い労働時間や環境などを提案している。また、就業規則はいつでも閲覧できるような場所に置いてある。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修のお知らせを閲覧できるよう回覧していた。希望すれば参加をして頂いていた。しかし、最近ではズームでの研修であったりして、パソコンを使用できない為参加できず、また、感染拡大を避けるために外部への研修も出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会には人員不足の為参加していない。資料は送付されてくるので、確認を必ずしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所される方へ出向き、生活の様子や心情を汲み取り、言葉にならない気持ちを受け止め安心していただけるようアセスメントをしっかりと行っている。また、気付きがあった場合すぐに職員間で情報共有し記録に残し安心して暮らせるように良い環境をさぐる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が求めている事を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、なぜこのホームを望んだのかを把握する為にご家族の気持ちに寄り添えるよう努力する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時ご本人ご家族それぞれの要望を把握し、一定期間細かく個人記録に落とす。そして職員の多角的視点で観察していく。継続できそうか他の良い方法があるか等職員間で話し合いをしている。その結果何が必要か判断をし、ケアに結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する者、される者に分けず、双方向の関係が保てるように心がけている料理・洗濯・手作業の技術や作法・所作・考え方・経験等職員はご入居者から学び、共に活動し日常生活を過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームだより・行事・日常の楽しそうな場面を撮影しご家族にお送りし様子を報告している。生活する上で必要な品があれば購入して頂けるように対応している。ご本人の様子を伝えることにより、支えていくための協力関係が築けることが多い		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人や知り合いがいる方は少なくなっている。散歩に出ると声をかけてくれることもあり、支援出来、交流も深まってきたが、コロナウイルス感染症の関係で外出が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がご入居者の様子をみてその都度対応し、良好な関係が保てるように心がけているが、認知症・精神疾患の方が多く、職員が困っている状態が続いている。主治医・看護師・家族と相談しながら対応を進めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後、他の施設へ電話の様子を伺っている。ご家族には電話で連絡し、現在の状態等をお聞きして、いつでもホームに出向いて頂き相談を受ける体制はあることを伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。把握困難な場合もご本人はどうしたいのか何を望んでいるのかを考え、ご本人より発した言葉だけで判断せず、職員間でカンファレンスし希望に添えるように努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の情報・生活歴などを管理者・ケアマネジャーと連携し支援している。ご本人のためにケアが活かせるように努め、プライバシー保護への配慮を忘れないようにしている。ご本人との会話の中から聞き取り、知り得た情報も多くある為役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人1人の暮らし方や生活リズムを把握していき、職員と一緒に生活する中で心理面に視点を置き、出来ることを見つけてその方の全体像の把握に努めている。特に疲れた時はすぐに休めるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	その都度ご本人やご家族に意見や要望をお聞きし、ケアプランに反映できるようにしている。又、医師・看護師・薬剤師のアドバイスを得て、月1度のカンファレンスを職員で行い、変化があった場合すぐに話し合いをし、介護計画に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に1日の生活状況や発言、職員の対応等細かく記録している。いつもと違うことがあればすぐに職員間で共有し、その方のニーズを理解して介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人ご家族の要望に添えるようにしている。通院や送迎等基本的にご家族対応、日中夜間救急対応の場合、家族が間に合わない時、管理者または職員が同行するときもまれにある。又、望む方には医師の判断のもと、リハビリマッサージを受ける事もできる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭り・いきいきサロン参加・地域ケアプラザイベント参加・近隣中学校職業体験の受け入れ・2か月に1回の理美容も行っているが、コロナウイルス感染症で理美容以外出来ていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の同意を得て24時間居宅療養診療医に委託している。家族が医療に心配があれば、訪問医に尋ねられるような態勢を取っている。訪問医を中心に複数の医療機関と関係を密に結んでいる。毎週往診はある。急変時にはすぐに往診医が出向いてくださる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の医療連携で、月2回の勤務で日頃の健康管理や医療面での相談助言対応をしている。職員は些細な変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。気付いたことがあれば適切に医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時主治医から情報提供書・看護師から介護サマリーを送り、適切な治療が出来るように連携をしている。入院途中には家族と連絡し合い、病院のソーシャルワーカーと連絡を取り、退院時にはホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化に伴う意思確認書の指針の説明同意を得ている。必要が生じた場合ご家族・主治医・看護師・薬剤師・管理者で話し合い、終末期であるお看取りの話をし同意を頂く。その後署名捺印を頂いている。また、記録にも残しチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が定期的に、AEDや心配蘇生法の訓練を受けている。また、夜間帯の緊急マニュアルを整備し職員に話をしている。しかし、コロナウイルス感染症のために、心配蘇生法は出来ていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力で防災避難訓練をしている。現在はコロナウイルス感染症のためにホームだけの訓練をし、消防署には連絡している。運営推進委員会では地域の方と協力体制を築き避難場所・備蓄・照明等の確認を定期的に行っている。水害時ホームで待機になる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者1人1人の人格を尊重した支援に努め、声かけや誘導する時は周りの状況に配慮し無理強いをしないよう支援を行っている。排泄や入浴時等にはプライバシーが守れるよう職員全員が注意して対応にあたりご入居者の尊厳を保てるように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護者は意思表示が困難な表情を読み取り些細な事でも本人が決定出来る様な場面をつくっている。又、要望や不満を話しやすいように常にご入居者とコミュニケーションを摂れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、1人1人の体調に配慮し、本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごして頂いている。入浴拒否がある方に対しては入浴を無理やり誘導するのではなく、違う話をしながらお風呂場までお連れし入って頂く。時には違う日を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の生活習慣に合わせ、行事の時はお化粧品やおしゃれな洋服を着て楽しんで頂けるように支援を心がけている。ご本人のこだわりや、身だしなみも把握しその人らしさが保てるようなお手伝いをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れた食事をご入居者と一緒に盛り付け、片付け等をして頂き、職員はご入居者がきちんと食べているかの把握をしている。又、食事が楽しく出来るようにCD・テレビをかねゆったりした気持ちで良い雰囲気づくりも気を付け大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し1人1人の摂取量の残量を確認し、口から摂取できない方には栄養面を補う為に、高カロリー食品も取り入れている。食事量・水分量は毎回摂取時に記録に残している。摂取量が少ない方は、色々な品を変えて対応し、食べる様声かけもしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、一人では出来ない方はスポンジ等を使用して介助し、夜には義歯を預かり消毒している 歯科医と連携している為、定期健診・口腔内の清潔保持・口臭・口腔内義歯の不具合があれば、すぐに治療に関して相談もできる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンを把握し声かけ誘導している。自尊心も尊重しトイレでの排泄も大切にしている。落ち着かずにトイレの往復が頻回な方や転倒リスクが高い方は、居室にPトイレを置き小まめに掃除をして清潔にしている。排泄表に記録も残している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認を行い申し送りをしている。自然排便がで出来る様、水分摂取・体操・腹部マッサージ・散歩をし予防している。主治医・ナースと常に相談しながらコントロールもしている。その他、乳製品・食物繊維の多い食品も摂取しできる様に心がけている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調に合わせて入浴の管理をしている清潔保持の為、状態に合わせて随時方法を選択し、入浴拒否が多い方は声かけ等の工夫をしている。午前午後といつでも入浴できる様に対応。週2回必ず入って頂くようにしているが都度、汚れてしまった時は随時対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。個人の状態を把握し、必要な休息や睡眠が取れるように支援している。天気の良い日は布団を干し、リネン交換し夕方から安心した時間の過ごし方を取り組み、就寝に向けて安定するように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師・看護師・薬剤師の協力を得て適切な服薬援助ができるように情報共有を行っている。薬の目的や使用方法を把握できるよう、薬の説明書をファイリングしている。服薬時には誤薬防止の為、3名の職員で確認をしてから服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で発揮出来るようケアプラン内に織り込んでいる。お願い出来るような仕事を頼む。例えば、清掃・食事の後型片付け・洗い物・洗濯干したたみ・新聞たたみ等をして頂いた時に感謝の言葉を伝え、塗り絵・パズル・折り紙・漢字等楽しみながらして頂く。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	1人1人の要望に沿って散歩・買い物にお連れし、ご家族にも協力して頂き、戸外に連れて行ってもらったり、家族の自宅に泊まりに行ったり出来る事をして頂いている。ホームではご入居者と一緒に車を使用してドライブ等していたが、現在出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事業所で保管管理しているご入居者が使用したいと要望があればいつでも使用できるようになっている。また、ご家族の了解のもとご本人が所持したいと望むときは後本人に管理して頂く事も稀にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来る様にしている。話を理解出来ない時や伝わらない時は職員がその時の気持ちをお伝えして、ご家族とご本人との懸け橋をしている。字が書けない方は、職員が代筆をすることもある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに共有スペースの装飾を変え季節間を取り入れている。又、外出時や行事の写真を貼り楽しい雰囲気づくりをしている。TPOに合わせて、好きな音楽をかけてくつろいで頂いたり、テーブル配置・席替えも取り入れ気分転換を図っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関には椅子を置き、居間にはファース壁には写真や季節の花・動物の写真等で装飾している。机には仕切りスペースをし、その中に動物・花の写真等挟んで楽しんで頂いている。又1人で居室で過ごす時間や仲の良いご入居者同士がくつろげるスペースもある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者に馴染みのある家具や生活用品を持参して頂き、落ち着いた好みの空間をつくる事をご家族と一緒にして頂いている。写真や絵を飾り趣味に合わせた部屋づくりを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやって頂けるのかを追求し、状況に合わせた環境整備に努めている。トイレへの空間表示を床に矢印を貼り自立した生活が送れるように工夫している。居室のドアには名前を解りやすく表札を付けている。		

2022年度

事業所名 スカイホーム湘南 はづき・あおい
 作成日： 2023年 2月 20 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	○日常的な外出支援 コロナ禍のために、外出支援が出来ていなかった。外出をするように毎日職員が努めていく。また家族へも依頼する。	お天気の良い日には、散歩に行けるように声掛けをする。家族と一緒に外食等に行けるように伝えて行く。	1週間の間に、各フロアごと2~3人ずつ外へお連れする。1週間で全員を戸外へ連れ出すように努める。	12ヶ月
				家族へ連絡をし、1ヶ月に1回程度、外食にお連れして頂けるようにお便りを出す。	12ヶ月
2	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング フロアごとに1ヶ月に1度カンファレンスをしていくなか、ご入居者に対しての居心地の良い場を作るために話し合いをしていく。	様子を見ていくなか、ご入居者の出来る事出来ない事の判断をして行き、医師・看護師・薬剤師・職員と話し合い、寄り添った形で考えていく。	毎日の様子を細やかに介護記録に落とし、カンファレンスで何に困っているのか、何が足りないのか、何が必要か考えていく。ご入居者のそうしたニーズを理解した上でどの様にしていくか目標を立てていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月